



安全・安心の学級づくり ～WEBQU を活用して～

2学期が始まり、3週間が過ぎました。夏休み明けの児童生徒の表情はいかがでしょう？
先日下記のような記事を目にしました。

今、不登校の小中学生は、10年連続増加をたどり、30万人にも迫っている。小学校の不登校は10年前の約5倍、中学校は2倍に増加しているといわれている。そして、不登校に至る要因は近年固定してきていて、過半数が、「無気力、不安」である。このような状況の基底には、文部科学省（2011）が指摘してきた以下のような、現在の児童生徒の実態が改善されていないと考えられる。

- ・自分の思いを一方的に伝えているに過ぎない。
- ・相互理解の能力が低下している。
- ・同質的なグループや人間関係の中でしか行動できない。
- ・同意見や反対の意思を伝えるだけで対話になっていない。

早稲田大学 教育・総合科学学術院教授 河村茂雄

第21回日本教育カウンセリング学会
研究発表大会 巻頭言より引用

不登校の子どもたちが安全・安心に過ごす居場所ができると教室に戻って来ることができるのではないのでしょうか。登校することが目的ではありませんが、人間関係を構築させ、居心地のよい学級を作り上げていくことが大人の責務であるような気がします。

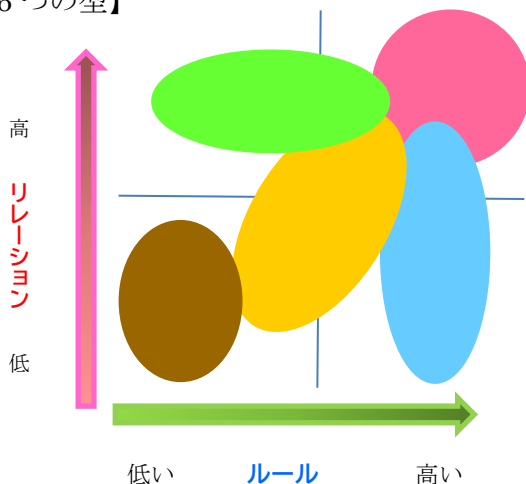
須賀川市では今年度から、従来のQU（紙面回答）からWEBQUになりました。初年度のため設定に苦慮したかと思いますが、9月に1回目を実施するにあたり次のようなことを確認し、学級づくりにWEBQUを活かしてください。

QUとは？

- 学級集団を総合的・多面的に診断するアセスメント
- ルール（規則）とリレーション（承認）によって学級の傾向を見ていくことができるもの
- 6つの型に大きく分類され、その特徴を理解したうえでそれぞれの型に対応した取り組みをおこなうことで居心地のよい学級づくりにいかしていくことができるもの

担任の指導の結果のように思われることがありますが、担任一人ではなく、「チーム学校」で考えるためのデータをもとにして改善するツールです。

【6つの型】



満足型

学級が居心地がよい

かたさ型

かたさの見られる学級。叱責や叱咤は逆効果。近づいてさりげない声掛けを。

ゆるみ型

なれ合い型ともいわれ、規律がうすい。小さなルールをみんなで決めてルール違反は見逃さない。

不安定型（荒れはじめ型）

学級のプラス面が徐々に失われ、マイナス面が表れる。表面化する児童生徒のフラストレーションに関係する問題行動に対処する。

崩壊型

学級内のトラブルが多くなり、チーム学校で早急に関わる必要がある。児童生徒一人一人との信頼関係を築くようにする。

拡散型（各人がばらばらになっている）

それぞれが無関心になっている。大きなトラブルが発生すると一気に崩れてしまう

<参考文献>

河村茂雄・武蔵由佳編著

『かたさを突破！学級集団つくりエクササイズ
中学校』2013年11月 図書文化社

こども園 5歳児クラスの出来事です。想像しながら読み進めてください。

給食で残ったスイカが4切れ。
それをおかわりしたいと手を挙げた子が8人。

さあ、どうしますか？
8人はスイカが大好き。
どのように分けるでしょうか？

大きいままスイカを食べたいからジャンケンしようという子。
半分こにすればみんな食べられるよという子。

結果は、大きいまま食べたいという意見が勝って、ジャンケンで食べられる子を決めた。
この間、担任は一切口を挟まず、子どもたちの動向を見守っていた。
食べられなかった子は負けても文句を言わない。自分の席に戻って実がうすくなってしまった皮を必死に絞り出し、わずかのスイカ汁を絞り出し「おいしい！」と言って飲み干した。

「分ければいいのに！」と思うのは大人の考え。子どもら自らが相談し出した答えは、誰もが納得し、誰一人文句をいうことなく終わったミニミニ会議。子どものすごさを感じた時間でした。加えて、その様子をじっと見守っていた担任の姿にも感動を覚えました。口を挟むことなく、子どもを信じる気持ちにも教師としての心構えが見えました。

～某幼稚園 5歳児クラスの出来事より～



【WEBQU を分析しよう！】

QU の分析の仕方にはいろいろな方法があるかと思いますが、今回はチームで考える QU の分析法の一つをお伝えします。また、今年度 WEBQU を使って学級の様子を分析した学校の感想も載せておきました。ご覧ください。

【手順】

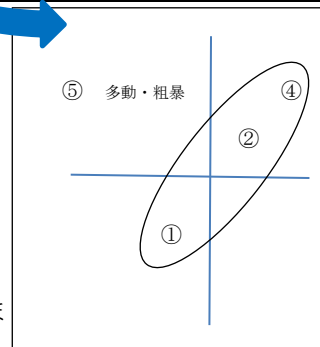
- ① 事例提供者が事前の資料を準備。日頃の様子から感じていることを記入してよい。それが、QU の結果と異なる様子でもよい。
- ② 事例提供者の資料を基に参加者（チーム）で QU のデータ（学級全体のばらつきを見るデータ）にその内容を書き込んでいく。（学級の型が分かるシートをプリントアウトしておく）
- ③ 書き込んだ内容から、学級の様子を参加者で想像していく。学級の状態を多面的に見てどんな状態かを考える。（6 つの型のどれに近いかな？）
- ④ 優先的に支援する必要がある児童生徒に対し具体的な方法を参加者で出しあう。その際報告者の困りに添うような支援策を考えることが大切である。偏りがなく、参加者全員が考えを出しあう。
- ⑤ 支援策を考える際、大切なことは、具体的に行えるものであること。支援策の根底にはデータからの根拠を裏付けとすること。（なんとなくではなく、〇〇だから△△の支援が必要。）

① 事例提供者（担任等）の報告

学級集団の背景	例：小規模校、男子 10 名、女子 8 名
問題と感じていること	例：基本的生活に乱れが見られはじめがない
学級内の公的リーダー	例：③男子
影響力の大きい児童生徒	例：④女子
態度や行動が気になる児童生徒	例：⑤男子、多動・粗暴
プロットの位置が日常観察から離れている児童生徒	例：②男子、③男子と仲が良く、満足群にいたると思ったが、実際には非承認群にプロット
小グループを形成する児童生徒	例：①②④、女子
4 群にプロットされた生徒の共通点	満足群：真面目、非承認群：おとなしい 侵害行為群：自己中心的、不満足群：境界線
担任の方針	

事例提供者の報告を受け、
プロットに記載する

⑤男子の事例
①②④女子のグループ



【WEBQU を使っての分析後の感想】（抜粋）

- これまでのように一人で悩むことなく、複数名、チームで分析できることから、これまでの悲観的な考えから「こうしてみよう」と考えることができました。
- これまでの紙ベースで確認するよりも関連する児童の情報をも素早く見つけることができました。タブレットで確認できることから、複数の目で同時に分析できるのはありがたいです。
- 現在の傾向だけでなく、今後の変化の予測までできることで学級の課題を見つけやすくなったように思えます。
- すぐに結果が分かること、個人の結果がより細かに分かること、何より見やすい！
- グループで行うことで職員間の共通理解を得ることができた。担任にありがちな個業化を防ぎ、チーム学校として対応できた。

*校内で分析をする際、必要があれば、須賀川市教育支援センターにご連絡いただければ、日程調整のうえ学校に伺います。

「コトバ主義教育」から抜け出ること その2 《コラム No.13》



さて、今回は紙面が少ないので、エピソード（のはじまり）を一つ。

前回の幼稚園のエピソードと同じ頃、都内のある小学校。季節は 12 月の寒い頃。1 年生の女の子が、算数の引き算のテストで 0 点になりました。通信簿はほぼオール 2 の子でしたが、さすがに全問まちがいは変だと思って先生がよく見ると、引き算の記号を全部＋にして回答しています。足し算にすれば全部合っています。先生は、女の子に「どうして足し算にしたの？」と尋ねました。

さあ、この子は何と答えたでしょう。その答えが奮っています。みなさんは想像できますか。ヒントは「季節」です。

もうちょっと書けそうなので、今度はクイズを一つ。教育（あるいは学校、学び）において、大切な四つの「H」があると言われます。第一番目は Humanity 《人間性》、二番目は Honesty 《誠実さ》。

さて、三番目は何でしょう？ 学びの共同体の研究会では、発言の際「自分が学んだこと」を話しますが、その由来の一つともなったものです。

では、四番目は？ 「学び」のあるところには必ず良質のこれがあると言われます。学びの共同体パイロットスクールのある中学校の校長さんは、校内研で最も大事なものはこれだと言って自ら実践しました。この学校の校内研は笑いにあふれながら、とても深い研究会となりました。ではまた次回。